
南アフリカ軍事史 1975 - 1988

きらと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

南アフリカ軍事史1975 - 1988

【Nコード】

N9344Z

【作者名】

きらと

【あらすじ】

過度な期待はしないで下さい。個人的にまとめた内容です。引用して間違っただけでも当方では責任を負いません。

1・RecceとかEOについて

小説やTV、ゲームの主人公は危機に陥っても最後には勝つ。シユワルツエネツガー主演の「コマンドー」では、元コマンドー隊員のメイトリックス大佐が単身、敵地に乗り込み暴れまわった。

そんなヒーローの活躍に、幼い頃の誰しもが憧れるだろう。

自称元グリーンベレー大尉の日本人作家がいる。彼の経歴ではコンゴ動乱に参加したと言う。

彼の作品の影響で、アフリカの紛争や内戦の影に傭兵のロマンを感じ、精強な男たちに幻想を抱いた。しかし大人になると夢も覚める。グリーンベレー云々は、広告戦略であり経歴詐称なのかもしれない。

彼の経歴の真偽はともかく、一騎当千の男たちがアフリカには実在した。

ローデシアSASやセルース・スカウト。南アフリカのRecceや第32大隊。南西アフリカのKoevoetがそれだ。(ローデシアSAS、セルーススカウト、第32大隊、Koevoetについては後述)

COIN作戦で戦果をあげた彼らは、政治的な敗北により歴史の表舞台から姿を消した。

冷戦時代、米国は反共を条件に軍事独裁政権を支援した。アパルトヘイトを掲げる南アフリカやローデシアもその一つだ。

東西融和のデタント時代以降には世界情勢も大きく変動し、援助も打ち切られる事となる。大国の都合に翻弄された戦争を長引かせられた彼らも被害者である。

南アフリカ国防軍は実際、20年前までSouth African Border Warでソ連・中国・東ドイツ・キューバが周辺諸国に軍事顧問団を送り込み、それを相手に30年近く戦争し

ていたので、精強と言えたが、その不正規特殊作戦は人道的にも問題点が多く、単純に戦果を絶賛する事は出来ない。RENAMOへの支援も例としてあげられる。

South African Border Warとはなにか？ 1966年から1989年まで、ポルトガル植民地戦争とその延長でアンゴラと、南西アフリカを舞台に複数の国家・団体が入り乱れて戦った戦争の事で、ポルトガルの脱落が大きく影響を与えている。

ポルトガル植民地戦争が首都リスボンで発生したカーネーション革命の結果、海外州の独立で終わると、ポルトガル領東アフリカはモザンビークとして独立した。隣接するローデシアは危機感を覚え、RENAMOを組織してモザンビーク領内で破壊活動を実施する。ローデシアがジンバブエとして独立後は、南アフリカがスポンサーとなる。

このRENAMOだが、子供を誘拐して兵士として育て上げるなど非人道的行為を行っていた。少数精鋭の特殊部隊は格好が良いと全てを肯定するわけにはいかない。

南アフリカ国防軍の行った最初の特殊作戦は1968年のピアフラだ。

当時の実戦部隊として、銃剣の交差した×印の部隊章を付けた作戦実験チーム(Operational Experiment al Team)が存在した。

Recceの名称が歴史の表舞台に登場したのはローデシア紛争の最中だ。

当時アフリカに於ける反共の最前線として周辺を囲まれていたローデシアは、連日の戦闘で疲弊しながらも南アフリカの支援で維持されていた。そんな中、SADFからローデシアSASのD中隊としてブレイテンバッハ大尉たちが派遣された。(ブレイテンバッハは、第1偵察コマンドーと第32大隊の初代指揮官として軍事史に

名前を刻んでいる。最近出版された、ローデシアのファイアーフォースの書籍に付属しているDVDにも出演しており存命が確認される)

ローデシアSASは1950年代にマラヤ動乱でCOIN作戦で活躍したマラヤスカウトを前身とする英国陸軍SASのC中隊から伝統を継ぐ部隊だ。

COIN (Counter Insurgency: 対叛乱鎮圧) 作戦の真髄を実戦で学び取った彼らは、南アフリカに帰国後、SADFに習熟した部隊運用や戦技を反映させて、1972年10月1日に第1偵察コマンドー(1 Reconnaissance Commando)が誕生する。小説やゲームにも出てくるレックス・コマンドーだ。発音としてはレキースが正しいそうだ。

記述を色々見ていると年代が前後するが、第1偵察コマンドーは1966年8月26日に、最初のCOIN作戦を実施している。指揮官はJ. D. ブレイテンバッツ八大尉。目的は、SAPの支援をしてSWAPOの訓練基地を叩く事。

その後、特殊部隊は増殖していき1974年6月1日にハンターグループ(Hunter Group)を母体に第2偵察コマンドー、1976年5月1日に第3偵察コマンドー、12月5日に第5偵察コマンドーが、1978年7月14日に第4偵察コマンドーが、1980年3月14日にはローデシアSASを母体に第6偵察コマンドーが編成された。

Recceは、南アフリカ境界戦争で周辺国に越境作戦を展開した。ローデシアが消滅した後は、セルーススカウト、SASメンバークがSADFに加わり人材面で拡充される。

冷戦後は、部隊を取り巻く状況が変化し紆余曲折を経て、第45落下傘旅団から特殊部隊旅団として再編成された。

武勲輝く1RCは、1981年6月1日、第1偵察連隊に、1993年8月1日、第452落下傘大隊に、1994年4月22日、第1特殊部隊連隊にと改編が続き、1997年3月31日に解散す

る。

他の部隊も改編が激しい。偵察コマンドーから偵察連隊、落下傘大隊、特殊部隊連隊と変動し、現在存在するのは第4特殊部隊連隊と第5特殊部隊連隊で、部隊章も4RC、5RCと同様である。

傭兵としての物語を書くには、これほど実戦経験豊富で魅力的な素材も少ない。Recceの隊員は、民間軍事会社の始祖であるExecutive Outcomes（EO社）にも流入している。EO社は、アパルトヘイト時代、南アフリカ国防軍の精鋭第32大隊の副大隊長だったイーベン・バロウズ元中佐が、マンデラ政権で失業した、第32大隊、Recce、koevoet、それと敵だった民族の槍（ゲリラの実戦部隊）。これらの隊員を集め、合法的に株式会社として南アフリカに拠点を置いた実戦経験者の多い人材派遣会社だ。

第32大隊（バッファロー大隊）は、アンゴラからの元FNLAゲリラと反共主義の兵士、南アフリカ国防軍の将校で構成された最も成功した対反乱鎮圧部隊としてアフリカ軍事史に名を刻んでいる。

もつとも、アンゴラの戦いに投入された戦力が限られていた為、最初のザバンナ作戦から最後まで参加していれば、当然、戦果を上げる訳だ。

EO社のアンゴラやシエラレオネでの活躍は歴史的事実で、この会社が嫌いな人間でも否定できない成果をあげている。

レオナルド・ディカプリオ主演の映画「ブラッド・ダイヤモンド」に出てくる民間軍事会社はこのEO社がモデルだ。ディカプリオ演じる主人公はローデシア出身の設定で、刑務所のシーンでは右腕に第32大隊の部隊章である牛の刺青が写っている。

2・略語と用語(1)

南アフリカが相手に戦った交戦相手の団体・組織名は長いため頭文字を取って略称で記載されている事が普通だ。ベトナム戦争で敵側をVC(Viet Cong)やNVA(North Vietn
amese Army)と略していたのと同様だが、一般的には聞き慣れない呼称であることに代わりはない。

例えばベトナム戦争の資料ではThe holeと言う単語が出てくるが、即座にTerm used by recon teams for landing in a small area in the jungleだと理解できる者は少ないだろう。全ての略語を記載するには多すぎるので、今回は、複数の資料をつき合わせて主だった物を抜粋して見た。

1・団体・組織名：耳慣れない用語が多い。

ANC:African National Congress
アフリカ民族会議。アパルトヘイト時代は、「民族の槍」と言う戦闘部門を組織してゲリラ戦を展開していた。当然、当時の南アフリカ政府からはテロ組織として睨まれていた。かつては非合法組織で、現在は政党の一つ。勝てば官軍の見本。

APLA:Azanian Peoples Liberation
ion Army ANCの民族の槍と同様、PAC(パンアフリ
カニスト会議)の実戦部隊。直訳したら人民解放軍になってしまう。
Bn: Battalion 大隊

COSATU:Congress of South African
Trade Union 南アフリカ労働組合会議。

CP:Conservative Party 保守党と言う南

アフリカの政党で、現在は存在しない。

CSII: Chief of Staff Intelligence SADFの情報本部。CS-2の事。ちなみに作戦担当はCS-3 (Chief of Staff Operations) となる。

FAPA: 英文で People's Air Force of Angola アンゴラ人民空軍。

FAPLA: 英文で People's Armed Forces for the Liberation of Angola アンゴラ解放人民軍。アンゴラ正規軍の総称。

FNLA: 英文で National Liberation Front for Angola アンゴラ民族解放戦線。

FRELIMO: 英文で Liberation Front for Mozambique モザンビーク解放戦線。モザンビークの政党。その名前の通り、ポルトガル植民地戦争の頃はゲリラ、ポルトガル政府から見れば叛乱軍。

IFP: Inkatha Freedom Party インカタ自由党。南アフリカの政党の一つ。

MK: Umkhonto we Sizwe (Spear of the Nation) the ANC's armed wing) ANCの戦闘部門、民族の槍。これで政争に負けていたら、ただのテロリストで終わっただろう。メンバーはExecutive OutcomesやSADFに雇用されている。

MPLA: 英文で Popular Movement for the Liberation of Angola アンゴラの政権を取った方。アンゴラ解放人民運動。

OAU: Organization of African Unity アフリカ統一機構。

PAC: Pan African Congress パンアフリカニスト会議。かつては非法組織で、現在は政党の一つ。

PLAN: People's Liberation Army of Namibia (SWAPO's armed wing) SWAPOの戦闘部隊。南アフリカ政府から見れば、ただのテロリスト。

SAAF: South African Air Force
南アフリカ空軍

SADF: South African Defense Force
南アフリカ国防軍。現在は名称が変わっている。

SAP: South African Police
直訳すれば南アフリカ警察だが、ローデシアの警察(BSAP: British South Africa Police)と混用を注意。

SWA: South West African
南西アフリカ現在のナミビア。第一次世界大戦ではドイツ領だったが、南アフリカがどさくさに紛れて自国に併合した。

SWAPO: South West African Peoples Organization
南アフリカから見れば完全にテロリスト。

SWATF: South West African Territorial Force
南西アフリカ地域軍。1980年8月1日に激化するSWAPOの反乱(ナミビア独立戦争)に対処するため編成。SADFの指揮下にあった。

TRC: Truth Reconciliation Commission
ission

UDF: United Democratic Front
南アフリカの反アパルトヘイト運動を行った統一民主戦線。反政府組織として活動を禁止されていた。

UNITA: 英文で Union for the Total Independence of Angola
アンゴラ全面独立民族同盟

USSR: Union of Soviet Socialist

t Republics 西側陣営の敵で東側陣営の盟主、ソ連。
アンゴラにも軍事顧問団の派遣や援助を行っていた。

2. 装備品：参考程度。

AK47：ソ連製7.62?自動小銃。世界的なヒット商品で、あらゆる戦場で使用された。コピー製品も多く出回っている。

Alouette：フランス製軽ヘリコプター。火力支援、偵察、救助に使用された。ロシアではG-Carの呼称で人員輸送に、K-Carの呼称で攻撃に使われた。一方、本家のSAAFではGolf Sierra(GS ガンシップ)と呼称されていた。

AN26：ソ連製アントノフ輸送機。FAPLAでソ連とキューバの搭乗員に操縦された。

APPMISR：ソ連製地雷。

BMP1：ソ連製歩兵戦闘車。対戦車ミサイルに73?機関砲まで装備している。

Bosbok：SAAFが保有するイタリア製単発エンジン搭載の軽偵察機。

BRDM12：ソ連製装甲車。14.5?と7.62?機銃を搭載。

BTR60：ソ連製装甲車。14.5?機関砲搭載。

Buccaneer：英国製攻撃機。

Buffel：SADFが地雷対策で開発した装甲車。

C130：ハーキュリーズ。4発エンジンの輸送機。米軍や空自でも保有している為、著名な機体。

C160：トランザール。フランス製の輸送機。

D30：ソ連製122?砲。射程15?。

D74：ソ連製122?砲。射程24?。

DKZ B：ソ連製122?ロケット発射筒。

Draganov：ソ連製7.62?狙撃銃。色々な作品にも出ており知名度は高い。

DShK 38/46：12.7?機関砲。

Eland90：フランス製パナール装甲車の派生系で、90?砲を搭載されたSADF仕様。

G1：SADFが装備した88?野砲。

G2：SADFが保有した155?野砲。元は、第二次世界大戦で使用された骨董品な5.5ポンド砲。射程16?。

G5：アンゴラにおいてSADF砲兵は、既存の装備では射程不足だと痛感した。この為、SADFが開発した155?榴弾砲。射程48?。

G6：G5の自走型。陸自の保有するFH-70はAPUで動くが、G6は完全な自走。

GPMG：7.62?機関銃。

Impala：SAAF戦闘機。

M55：3連装30?対空機関砲。

M79：40?擲弾発射筒。ベトナム戦争でも使用されており、著名な火器。

MAG：ベルギーFN社製7.62?軽機関銃。

MI8、MI17：ソ連製汎用ヘリコプター。

MI24、MI25、MI35：ハインド。ソ連製強襲ヘリコプター。Googleの地図で拡大すると撃墜されたハインドが見れる。

Mig17：ソ連製単座戦闘機。迎撃機。

Mig23：ソ連製汎用機。戦闘爆撃、対空戦闘の迎撃任務などもこなす。

Milan：SADFが保有したフランス製対戦車ミサイル。

Mirage F-1AZ：SAAFが保有したフランス製の主力攻撃機。

Mirage F-1CZ：SAAFが保有したフランス製の迎

撃機。

O l i f a n t : S A D F が保有した主力戦車。

P K M : 7 . 6 2 ? 機関銃。

P T 7 6 : ソ連製軽戦車。

P u m a : S A A F が保有したフランス製輸送ヘリコプター。

R 1 : 英国の S L R 、ベルギーの F N と同じ。 S A D F 仕様の 7

6 2 ? 自動小銃。

R 4 : イスラエルで開発されたガリルの派生系。 S A D F 仕様の

5 . 5 6 ? 自動小銃。

R 5 : 落下傘部隊、 k o e v o e t で使用された R 4 の小型仕様。

R a t e l : S A D F の装甲戦闘車で様々な派生系が存在する。

例えば、 R a t e l 2 0 は 2 0 ? 機関砲と 7 . 6 2 ? 機関銃を搭載

しており、 R a t e l 9 0 は対戦車戦闘を想定して 9 0 ? 砲を搭載

している。 R a t e l Z T 3 は 1 2 7 ? ミサイル発射機を搭載し

ておりユニークだ。

R P D : 7 . 6 2 ? 機関銃。

R P G : ソ連製 4 0 ? ロケット発射筒。歩兵の携帯火器として、

戦闘車輛に驚異を与える事ができる偉大な兵器。

S A 2 : ソ連製地对空ミサイル。射程 4 0 ~ 5 0 ? 。

S A 3 : ソ連製地对空ミサイル。射程 2 9 ? 。

S A 7 : ソ連製携帯地对空ミサイル。

S A 8 : ソ連製短距離地对空ミサイル。 B R D M - 2 に搭載して

いる。

S a b r e : S A D F 偵察用の軽車輛で 7 . 6 2 ? 機関銃を搭載

している。

S t i n g e r : 携帯地对空ミサイル。アンテナを広げて撃つ。

発射筒自体は使い捨て。

S u p e r F r e l o n : S A A F が保有したフランス製ヘリ

コプター。

T 3 4 、 T 5 4 、 T 5 5 、 T 6 2 、 T 6 5 : S A D F と対峙した

敵側が使用したソ連製主力戦車。Googleの地図で拡大すると撃破された戦車が見える。

Unimog:不細工なデザインに味わいがあるSADFの特徴的な装輪装甲車。ちなみにメルセデス・ベンツ製だと言う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9344z/>

南アフリカ軍事史1975 - 1988

2012年1月2日01時47分発行